

がんばってます！

まちのものづくり企業



代表取締役 中村 眞輔 氏

小さい頃、消防車のプラモデルに夢中になった中村社長。「特殊なものづくりに思えますが、プラモデルを組み立てると同じです。人と人とのつながりを大切にしながら『ものづくり』と『ひとつづくり』に励んでいきたい。」と思いを話されました。



技

「手作り、消防車は大きなプラモデル

(株)ナカムラ消防化学

人々の命と財産を守るため、全国各地で活躍する消防車。子どもたちも憧れる消防車がここ

大村でも製造されていることをご存知ですか。豊かな緑に囲まれた諫早市との市境にある、消防車製造工場「ナカムラ消防化学」は、全国から注文を受け、さまざまな消防ポンプ車を製造しています。

島原でスプリンクラーや消火器の販売を行っていた父親の意志を受け継ぎ、昭和54年に大村市に移転しました。そこで「消防車好き」が高じて、国道沿いに消防車用のポンプ工場を建設。平成16年には現在地である平町に工場を開設し、防災の一端を担う重要なものづくりで地域に貢献しています。大村工場で働く従業員は35人。中には「消防車を作りたい」との思いから、大村へ移住して来られた従業員もいるそうです。

消防車の製造認可を受けているメーカーは全国に6社あるのですが、そのうちの1社がナカムラ消防化学で、そのほかは関東や関西にあります。同社が搭載する消防ポンプは、日本最大級の吸水能力があり全国から受注が相次いでいて、大小合わせて年間60台余りの各種消防車を製造しています。

工場には、消防車へ変身していく車が所狭しと並べられ、組み立て作業が行われていました。この工場では設計から製造、メンテナンスまですべて完全オーダー制で、「同じ型の消防車はない」ほど細かなニーズにまで対応しています。しかもすべてが手作業。納品までに約6か月かかります。「消防署などの要望を形に変えていく、そこにもものづくりの楽しさがあります。やってやれないことはない。」と中村社長は教えてくれました。

同社はこのほか、泡で消火を行う装置やそれを搭載した軽自動車ポンプ車、また、火に入れるだけで消火できるオリジナル商品の小型消火剤や消火ボトルなどさまざまな製品を製造しています。消火剤は、テレビや新聞などでもよく取り上げられ、販路を拡大しています。

国内に営業所を8か所構える同社。製造部門などは国外にも進出しています。中村社長は、「ここ大村で発想された独自の技術を世界に発信しながら、世界に通用するものづくりの楽しさを一人でも多くの若者に伝えたいですね。」と、将来を見据えながら熱く語ってくださいました。



(株)ナカムラ消防化学
平町1933 ☎️1617
代表取締役 中村 眞輔
社員数 約60人

